

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

マーク式・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

昨年度 30 字で出題された論述は、今年度は 35 字で出題された。マーク式問題も昨年度と同様 37 問で、小問総数は 38 問。そのうち正誤判定問題の数は、一昨年度よりも 6 問増加して 32 問となった昨年度からさらに 2 問増加して、34 問となった。正誤判定問題が増えた一方で、本学部の頻出形式であった年代整序問題は、昨年度に引き続き出題されなかった。また、昨年度出題された地図問題が、今年度は出題されなかった。

難易度は、大問 2 つが「難」であった昨年度に比べて、やや易化した。

その他トピックス

論述の出題が 3 年連続となった。本学部の形式として定着したと断言するのはまだ早計かもしれないが、しっかり対策を講じておきたい。大問 IV は、誤文の内容には細かいものが多かったが、正文は教科書レベルの知識で判断できるものがほとんどであった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式 論述式	アフリカ史 (古代～15C)	問 1. 空欄 (A) は「アクスム」。問 2. 空欄 (B) は「ムラービト」。b. アチェ王国 (15C 末～20C 初) は、ムラービト朝が 12 世紀半ば滅亡した後成立した国。問 5. a. ブガンダ王国のこと。b. 「ソファラ」ではなく「ガオ」。d. 「ベニン王国」ではなく「モロッコのサアド朝」。正文は細かく、消去法でも難しい。問 6. a. 「ンデベレ人」ではなく「ショナ人」。c. カネム＝ボルヌー王国のこと。d. 「イギリス」ではなく「ポルトガル」。問 8. a. 「ジブチ」ではなく「モガディシュ」。問 9. 空欄 (I) は「永楽帝」。	標準
II	マーク式	戦争と社会の変容 (古代～現代)	問 2. 空欄 (B) は「アケメネス朝」。問 3. b. 「陪審員による投票」ではなく「民会における選挙」。c. 「20 歳以上」ではなく「30 歳以上」。d. 「民衆の平等」ではなく「民衆の支配」。誤文は細かい内容を含むが、正文は比較的平易。問 6. c. 「下院」ではなく「上院」。d. 「国際資本移動の自由化」ではなく「為替の安定と戦後復興」。問 7. a. ロシアは途中でプロイセン側についた。b. イギリスも先住民と連合して戦った。したがって、a・b も正文となる可能性がある。問 8. d. ボリビアは 1825 年に独立している。問 9. b. 「カーター」ではなく「ニクソン」。c. イギリス・フランス・ロシアは批准した。d. 批准国が 50 カ国に達し、2021 年に発効している。ただし、核保有国や日本などは参加していない。ニュースなどでたびたび話題になる時事事項である。問 10. a. ロシアは空爆に参加せず。b. フランスはイラク攻撃に反対。c. ロシアがシリア政府軍を、アメリカがシリアの反体制派をそれぞれ支援。	標準

地歴公民(世界史) 早稲田大学 社会科学部 2/2

III	マーク式	西ヨーロッパのキリスト教史 (中世～近世)	<p>問4. b. 15世紀初め(1404)のこと。なお、勘合貿易が始められたとき、足利義満は將軍職ではなかったため、解なしの可能性もある。問5. d. 「平等で精神性に富んだ架空の理想社会を描いた」の部分は、トマス＝モア『ユートピア』の説明。問6. a. ルターは当初は農民戦争に同情的だったが、後に領主側に立って弾圧を支持した。b. カルヴァンは、ジュネーブで政教一致の神権政治を行った。「政治と宗教を切り離す政治倫理を展開した」のは、マキアヴェリ。問7. 空欄「え」は、ユグノー戦争。d. 「ボシュエ」ではなく「ボーダン」。問10. a. バロック美術の説明。b. ロココ美術の説明。c. 自然主義絵画の説明。</p> <p>※問4については、後日、大学より選択肢の記述に不適切な部分があったため、解答の有無・内容にかかわらず、受験生全員に得点を与えると発表された。</p>	標準
IV	マーク式	東南アジア諸国連合(ASEAN)の歴史	<p>問1. a. 和平協定は1991年に締結。b. ベトナム軍は1989年にカンボジアから撤退。c. 国連カンボジア暫定統治機構の監視下で総選挙・新憲法採択が行われ、立憲君主制のカンボジア王国が成立した。問4. a. 「植民地支配の協力者」ではなく「植民地支配に抗議する者」。b. 政教一致政策をとって、住民にカトリックを強制。d. ミンダナオ島南部のムスリムはスペイン支配に対して独立を維持。その後、アメリカが全域を統治下に置いた。問6. b. 親中派のポル＝ポトを中心とするクメール＝ルージュが樹立した民主カンブチアを、ベトナムの支援を受けたヘン＝サムリン派が打倒。c. 「復活」ではなく、ラオス王国を廃してラオス人民民主共和国を樹立。d. 「ビルマ式民主主義」ではなく「ビルマ式社会主義」。問9. b. マルコス政権からアキノ政権への交替は1986年で、アジア通貨危機より前。c. 「一帯一路」は、2010年代に習近平政権下で発表。d. APECは、オーストラリア首相の呼びかけで1989年に結成。</p>	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

短い論述は、一昨年度の穀物法、昨年度のカピチュレーションに続き、今年度の国土回復運動(レコンキスタ)のいずれも内容説明問題であった。まずは基本用語をコンパクトに説明するトレーニングを積んでおこう。第二次世界大戦後の歴史で難度の高い設問が見受けられるため、早めに通史を仕上げ、テーマ対策に時間を割き、時事的なテーマにも普段から関心を払っておきたい。「ひとまず1989年の冷戦終結までやっておけば大丈夫だろう」というレベルではとても太刀打ちできない。

形式面では、今年度は出題されなかったが、昨年度出題された地図問題の対策を軽視しないこと。また、年代整序問題は今年度も出題されなかったが、来年度に復活することは十分考えられるので、因果関係で並び替える手法と、年代知識を駆使して並び替える手法の2つを併用できるように学習を進めてほしい。